

清心女子高等学校 第1学年 学習指導案

期 日：令和7年12月17日
時 間：第5校時
対 象：第1学年A組30名
学校名：清心女子高等学校
授業者：川崎・橋岡

1 単元（題材）名

「岡山県が抱える課題～私たちが考える解決策～」

2 単元（題材）の目標

- (1)自身の主張をより確かなものにするため、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、論拠を明確にして表現する。〔知識・技能〕
- (2)グループで論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する。〔知識・技能〕
- (3)自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、プレゼンテーションにおける表現の仕方を工夫する。〔思考・判断・表現〕
- (4)グループ活動を通して、探究に主体的・協働的に取り組むとともに、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。〔主体的に学習に取り組む態度〕

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・自身の主張をより確かなものにするため、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めている。・論拠を明確にして主張している。・グループで論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考える。・プレゼンテーションにおける表現の仕方を工夫する。	<ul style="list-style-type: none">・グループ活動を通して、探究に主体的・協働的に取り組むとともに、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

4 指導観

(1)単元（題材）観

SS 課題研究基礎では、「3つの思考法（ロジカルシンキング・クリティカルシンキング・ラテラルシンキング）」を身につけ、活用することを目指している。1学期より、論理的思考に基づいた文章表現、データを活用した思考力理解を深めてきた。（9を参照）

本単元では、その3つの思考法を活用して、グループでひとつの課題に取り組む。知識や技能として身につけた思考法を実際に活用することで、他教科の授業や探究学習、また実生活において、生徒が自ら思考法を実践できることを目指す。

(2)教材観

地方の自治体にとって早急に取り組まないといけない課題が多々あり、岡山県も例外ではない。そこで県内における課題を分野ごとに挙げてそれに対して岡山県がどのような施策を行っているかを調べさせるとともに、地域に関するテーマを扱うことで地元の多様な面を再発見することができるのではないかと考えた。また、それらをどう発信し、特徴付けているかを知った上で生徒たちなりの施策を根拠に基づいて考えてもらうこととした。

(3)生徒観

NDSU コース・特別進学コース国際系が一緒になった30名のクラスである。
SS 課題研究基礎の授業では、1学期より「3つの思考法（ロジカルシンキング・クリティカルシンキング・ラテ

ラルシンキング) 」について学習してきた。また、基本的なデータを扱い、グラフを作成するなど、Chromebook を使って基本的なデータ処理をすることができる。

SS 課題研究基礎の授業でグループ活動をするのは初めてであり、本単元では、グループで論点を共有し、話し合いを進めながら、多角的な視点で物事を捉えることが課題となる。また、まとめたことを人前で発表することが初めての生徒も多いため、予め用意したフォーマットに従ってスライド作成を行うこととした。

6 単元(題材)の指導計画と評価計画(全5時間扱い)

時	★目標 ☆関連する主な資質・能力 ○学習内容 ・学習活動	■評価規準(評価方法)
第1時	<p>★選択した岡山県の課題の現状を知る ☆情報の妥当性や信頼性の吟味(クリティカルシンキング)</p> <p>○選択した岡山の課題の現状および課題について調べる</p>	<p>■グループで論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。(観察)</p> <p>■グループ活動を通して、探究に主体的・協働的に取り組んでいる。(観察)</p>
第2時	<p>★選択した課題に対して岡山あるいは自治体の施策と成功した自治体の施策の理解と比較 ☆1つの施策に対してどのような方法があるか考える(ラテラルシンキング) ☆成功例の施策が選択した自治体に効果的であることをデータと照らし合わせて考える(クリティカルシンキング)</p> <p>グループ内で課題に対する「成功例」を探し、情報をまとめる。 ○「成功例」を探しまとめる ・成功した具体的な施策を探し、その結果どのような効果があったかをデータといっしょにまとめる。 ○「施策」を考える ・これまで行った施策を見直し、効果を検証する。 ・「成功例」の施策と比較しながら、現在行っているものをブラッシュアップする。</p>	<p>■自身の主張をより確かなものにするため、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めている。(観察)</p> <p>■グループで論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。(観察)</p> <p>■グループ活動を通して、探究に主体的・協働的に取り組んでいる。(観察)</p>
第3時	<p>★選択した課題に対する施策をまとめる ★発表する内容を要旨としてまとめる ☆考えた施策や取り組みが的確に伝わるように考える(ロジカルシンキング)</p> <p>各グループが前回から調べてきたことをまとめ、その内容を用紙としてまとめる。 ○わかりやすいスライド・説明および表現の仕方を工夫する。 ○予め用意した用紙のフォーマットに従って発表する内容をまとめる</p>	<p>■グループ活動を通して、探究に主体的・協働的に取り組んでいる。(観察)</p> <p>■自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えている。(観察)</p> <p>■プレゼンテーションにおける表現の仕方を考えている。(観察)</p>
第4時	<p>★選択した課題に対する施策をまとめ、各グループで発表の練習をする ☆考えた施策や取り組みが的確に伝わるように考える(ロジカルシンキング)</p> <p>作成したスライドおよび要旨を仕上げ、発表の練習をする。</p>	<p>■論拠を明確にして主張している。(発表)</p> <p>■プレゼンテーションにおける表現の仕方を工夫している。(発表)</p> <p>■グループ活動を通して、探究に</p>

		主体的・協働的に取り組むとともに、よりよい社会を実現しようとする態度が見られる。(観察)
--	--	--

7 指導に当たって

- (1) 身近な地域における課題を考え、地域の実態を知ることこそで生活をしている人たちにとって必要なことである。とくに“消滅する可能性がある”となるとそれをどうすれば改善されるかを考える際に既存の考え以外に自由な発想が求められる(ラテラルシンキング)。
- (2) グループワークを通して現状の把握と施策が効果的であるか、また成功した例が汎用性のあるものかなど試行錯誤しながら思考する姿勢を大切にする。また、複数の案が出てきた場合はそれぞれを比較し、どれが最適解かを判断できるようにする(ロジカルシンキング・クリティカルシンキング)。

8 本時(全5時間中の5時間目)

(1) 本時の目標

これまで準備し、まとめてきたスライドを使って、発表する。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	☆資質・能力を育成する主な手立て ■評価規準(評価方法)
導入 (5分)	○本時の内容の説明 ・各グループの発表を行うことと評価内容の確認	発表の評価の観点を知らせる。	
展開 (35分)	○8つのグループがそれぞれの課題テーマについて発表をする	各グループの発表を評価の観点に沿って評価させる。	■自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えている。(発表) ■プレゼンテーションにおける表現の仕方を工夫している。(発表)
まとめ (5分)	○今後の展開について説明 3学期から12月初旬に希望した分野に分かれて2年生から本格的に始まる探究活動の準備に入ることを告げる		

9 SS 課題研究基礎の1年間の流れ

この科目は第2学年に設定されている「SS 課題研究」における活動を効率よく進めていくために用意されたものである。課題解決に向けた思考法の習得、文章の読解、データの読み取り、資料分析などの実習を通して、読む力の育成を目的とし、学校設定科目「SS 課題研究基礎」(1単位)は国語科と数学科の教員が合同で理数のカリキュラム内で実施した。

(令和7年度の年間実施内容および予定)

回	内 容
1	課題研究の意義、課題解決のための思考法
2	文章作法の基本
3	論理的な文章の構成①
4	論理的な文章の構成②
5	論理的文章を書く①(型を習得する)
6	論理的文章を書く②(問いを把握する)
7	論理的文章を書く③(問題解決を目指す)
8	データの分析① データの代表値、最頻値、中央値
9	データの分析② データの散らばり 標準偏差

10	データの分析③ データの比較 相関関係
11	データの分析④ データを読みとく(岡山県の人口推移)
12	グラフの基本およびデータの読み取り①
13	グラフの基本およびデータの読み取り②
14	グラフの基本およびデータの読み取り③
15	グループ活動による探究活動
16	外部講師による講演「より良い探究のために」 講師：進藤明彦氏（鳥取大学教育支援・国際交流推進機構 准教授）
17	SS 課題研究 事前学習① 課題研究活動とは
18	SS 課題研究 事前学習② 研究テーマの探し方
19	SS 課題研究 事前学習③ 研究倫理について
20	SS 課題研究 事前学習④ 仮説設定・研究サイクル

※1～14 までの内容を 1 学期から 2 学期前半まで実施

※15 を 2 学期後半で実施

※16～20 までの内容を 3 学期に実施予定(17 からは 2 年次行う予定のテーマに分かれて実施予定)

※表中の回については単元としてのまとまりを表すものであり、実際の授業回数を示したのではない